

平成 27 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2015

Date: 平成 28 年 3 月 3 日

日本語・日本文化専攻長 殿

To Dean of Studies in Japanese Language and Culture

講座名・職名 Course Title・Job Title	日本語日本文化教育センター 准教授
氏名 Name	大和祐子
専門分野 Academic Field	日本語教育学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	(1)日本語学習者の複合語彙の理解に関わる諸要因 (2)日本語非母語話者の日本語教師養成に関する基礎的研究
<p>(1)本年度は、スリランカで実施した非漢字圏日本語学習者のデータを分析した。人を表す接尾辞の理解を問うテストの結果をまとめたが、既に実施している漢字圏日本語学習者と比較するにはサンプル数が少なく、また日本語語彙能力の違いが大きかったことから、来年度夏にさらにスリランカでのデータ収集を行い、サンプル数を増やす予定である。さらに、語彙使用頻度やコーパスからのデータを基に、前年度の調査で扱った派生語以外の派生語について、その理解に対する影響要因を調べるために、新たに調査用の問題を作成した。来年度以降、漢字圏・非漢字圏でのデータ収集を目指す。</p> <p>(2)海外で日本語教育系科目を持つ中国・台湾の大学を中心に、そのカリキュラムを調べた。その結果、中国・台湾で開講されている日本語教育系科目の特徴として、日本語教育学関連の授業は大学院レベルでの開講が多く、実習系の授業はほとんどないことが分かった。また、理論的に日本語教育学及び第二言語習得を扱った授業が比較的多いことが分かった。さらに、日本へ短期留学している間に日本語教育実習を行っている留学生についての分析も行った。本年度は特に、日本語教育実習を行うための準備として行った初級日本語授業の授業見学の活動を取り上げ、授業見学から日本語を母語としない教育実習生が何を学ぶのか、授業見学レポートの内容分析を行い、明らかにした。その結果、授業見学前半の実習生のコメントからは、日本語学習者の1人として授業に参加している点が特徴的であったが、授業見学後半の実習生のコメントからは、日本語の授業を客観的に観察し、実習生自身の教壇実習に生かそうとする日本語教師としての視点が加わっていることが分かった。つまり、授業見学を継続的に行うことにより、授業を客観的に見るという視点が養われることが明らかになった。これらの結果は、昨年8月にフランス・ボルドーで行われた第19回ヨーロッパ日本語教育シンポジウムにて報告し、論文集にまとめた。</p> <p>大和祐子(2016・印刷中)「日本語非母語話者の日本語教育実習生は授業観察を通してどのように成長するか?」『ヨーロッパ日本語教育』20, 第19回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム報告・論文集</p> <p>この他に、科学研究費分担者として、漢字圏・非漢字圏の漢字・語彙能力を正確に測定するためのプレースメントテストの開発を行っており、試行テストの実施と統計的な分析を行った。この研究の結果は、来年度以降、学会等で発表する予定である。</p>	